

【発行】社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 従事者共済会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11 東京YWCA会館 3階

TEL 03-5283-6898 FAX 03-5283-6997



つなげる笑顔のかけ橋

加入者の皆さまに周知をお願いしたいことや、事務担当者の皆さまへのお知らせを含めた「従事者共済会 NEWS」を共済契約施設（団体）あてにファックス一斉送信で送付しています。なお、同一のファックス番号宛には1通のみ送信となります。

本NEWSの内容は、東社協ホームページ <http://www.tcsw.tvac.or.jp/> の「従事者共済会」のページにも掲載します。

財政決算について

従事者共済会制度における財政状態の健全性を確認するため、3年ごとに財政決算を実施しています。今年度はその該当年度であるため、2018年度末基準により財政決算を実施しました。

結果としては、総資産額が将来給付を賄うために必要な責任準備金を上回っており、積立水準は102%と良好な値が示されています。前回財政決算時（2015年度）の積立水準は99.1%であり、積立不足の状態が解消されています。

2018年度末の資産状況

総資産額 61,937 百万円	剰余金 1,222 百万円
	責任準備金 60,715 百万円

積立水準（総資産額÷責任準備金）
=102.0%

次期資産運用方針および制度の見直しに関する検討状況について

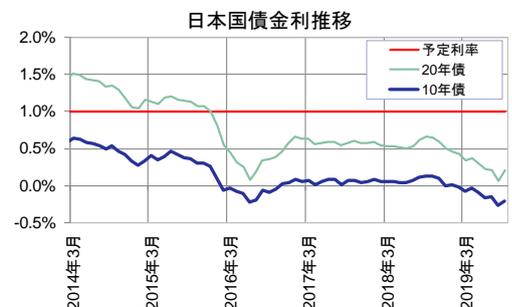
従事者共済会制度を安定的に運営するため、資産運用の基本となる基本ポートフォリオ（資産配分比率）を定め、5年ごとに市場環境を踏まえ見直しを行っています。昨年度が見直しの時期でしたが、従事者共済会制度の変更も含め検討するため、引き続き検討してきました。

(1) 現在の市場環境と退職金制度について

従事者共済会制度の資産運用は、国内債券・国内株式・外国債券・外国株式に分散して行っていますが、主に日本国債の10年・20年債等を自ら購入する自家運用債券で運用している一方で、従事者共済会制度自体は事務費分を除いて予定利率（運用利回り）1%を前提に運営しています。

現在の市場環境は、マイナス金利政策を背景に国債の金利が大幅に低下しており、予定利率1%を下回る水準（右図）です。この状態が今後も続くと、財政状態が再び悪化する可能性が高まります。

また、前述のとおり責任準備金の積立水準が改善している状況にありますので、将来にわたって給付を確実に行うことができるよう、さらなる従事者共済会制度の安定化とリスク抑制を図るため、リスク性資産への資産配分を抑制する方向で従事者共済会制度見直しの検討を進めています。



(2) 退職金制度見直しの検討状況について

低金利の環境下、従事者共済会制度を安定的に運営するために以下のシナリオで検討しています。

シナリオ A：制度変更を行い、自家運用債券のみの運営に変更

シナリオ B：制度変更を行い、現行よりリスク性資産を抑制した運営に変更

シナリオ C：制度変更せず、リスク性資産を抑制した運営に変更

※制度変更では、予定利率の引下、それに伴う「給付引下」もしくは「掛金増加」を検討

なお、各シナリオの予定利率は、A 0.55%、B 0.75%、C 1.00%（現行）で検討

※リスク性資産とは、国内株式・外国株式・外国債券のこと

現時点までの検討状況では、次の理由により『シナリオ B(給付引下)』の方向で考えています。

- ①『シナリオ C』は、予定利率 1%（現行）では従事者共済会制度の安定的な運営の向上に係る寄与度が低いこと
- ②『シナリオ A』は、予定利率 0.55%に問題無いものの、以下の理由により回避する方向性
 - ・「給付引下」の場合は、将来の給付金額が 700 万円を下回ること（現行 740 万円）
 - ・「掛金増加」の場合は、月々の掛金増加額を加入者・事業所で折半することになるが、昨今の事業所の運営費用増加（採用コスト・社会保険料等）を踏まえると許容しづらいこと
- ③『シナリオ B』は、予定利率 0.75%で、「掛金増加」の場合はシナリオ A と同じく許容しづらいものの、「給付引下」の場合は将来の給付金額は 700 万円以上であり一定の水準を維持していること

「給付」見直しの場合の影響額（前提：20 歳加入 65 歳退会）

移行時年齢	シナリオ A	シナリオ B	シナリオ C
20 歳	685 万円 (△55 万円)	706 万円 (△34 万円)	740 万円
30 歳	687 万円 (△53 万円)	707 万円 (△33 万円)	
40 歳	696 万円 (△44 万円)	712 万円 (△28 万円)	
50 歳	715 万円 (△25 万円)	724 万円 (△16 万円)	

※制度変更時年齢毎の給付水準への影響額推計（変更前の積立部分には影響しないため年齢毎に表示）。

なお、カッコ内は現行（シナリオ C）との差額を表示

「掛金」見直しの場合の影響額（前提：年齢 41.8 歳、標準給与 22.7 万円、加入者数 21.3 人）

	シナリオ A	シナリオ B	シナリオ C
平均的事業所	139 万円 (+6 万円)	136 万円 (+3 万円)	133 万円
平均的職員	65,200 円 (+2,800 円)	63,800 円 (+1,400 円)	62,400 円

※上記は年間の掛金増加額推計。なお、カッコ内は現行（シナリオ C）との差額を表示。

（3）今後の検討について

以上を踏まえ、現在『シナリオ B』のうち、給付の引き下げの方向で審議し、リスク性資産を抑制した運営に変更することを考えています。

これらの内容については 11 月 6 日に開催した代議員会で経過説明をしていますが、3 月の代議員会で方針を決定し、5 月以降の代議員会で従事者共済会規程および資金管理細則を改正することを考えています。それに伴い、必要なプロセスとして、資産運用委員会の同意を得て、代議員会で議決し、その上で契約施設の 3 分の 2 以上の同意を得る手続きが必要となりますので、ご理解、ご協力のほど宜しくお願いします。また、本件についてご意見がございましたら 3 月 10 日（火）までに従事者共済会事務局へお寄せいただきますようお願いいたします。

従事者共済会資産状況について（令和元年 9 月末時点）

	H31年3月末	H31年9月末	資金構成割合	基本ポートフォリオ		増減				
					乖離許容					
退職共済金運用資金（積立金）	61,171,597,723	61,550,553,707				378,955,984				
預貯金	6,804,414,074	5,810,515,067	15.08%	10%	-	-993,899,007				
定期預金	3,500,000,000	3,500,000,000				0				
自家運用（債券）	36,323,877,174	37,513,627,310	72.44%	76%	71~81%	1,189,750,136				
三井住友信託銀行	2,596,990,260	2,636,528,967				国内債	39,538,707			
三菱UFJ信託銀行	2,268,030,534	2,297,260,236					29,229,702			
みずほ信託銀行	2,245,208,607	2,276,147,937					30,939,330			
ブラックロック・ジャパン社	2,286,678,555	2,294,900,139				国内株	3.72%	4%	3~5%	8,221,584
	2,545,351,603	2,589,686,136				外国債	4.19%	5%	4~6%	44,334,533
	2,601,046,916	2,631,887,915	外国株	4.26%	4%	3~5%	30,840,999			
貸付金	184,994,216	188,349,917	0.31%	1%	-	3,355,701				
退職共済金支払基金合計	61,356,591,939	61,738,903,624	100.00%	100%		382,311,685				

令和元年度上半期従事者共済会事業執行状況報告

令和元年度第2回従事者共済会代議員会を11月6日(水)に開催し、令和元年度執行状況(上半期)について協議しました。

令和元年10月現在で契約施設・団体は2,719か所、加入者数は58,395人となり、前年度末から加入者数は2,179人の増となっています。

共済会の運営については、右表のとおりです。今後も、安全かつ適切な資金運用および、管理体制の強化、事務の効率化に努めます。

【令和元年9月現在の従事者共済会の状況】

【契約施設・団体数】 (単位:か所)

30年度末	令和元年9月	増減
2,665	2,718	53

【加入者数】 (単位:人)

30年度末	令和元年9月	増減
56,960	58,322	1,362

代議員・幹事の補充選任について

代議員・幹事の欠員補充がありましたのでご報告いたします。

【東京都高齢者福祉施設協議会】

- 石山 義啓 氏(千川の杜)
- 海老沼 達雄 氏(白寿荘)
- 鷲野 好誠 氏(品川区立中延在宅サビセンター)
- 屋良 朝子 氏(かりん・町田)

【医療部会】

- 寶田 真 氏(駒沢病院)
- 関口 浩一郎 氏(武蔵野療園病院)

【乳児部会】

- 畑 典子 氏(愛恵会乳児院)

このほかの議決事項としては、新規契約締結について諮られ承認されました。

令和元年度(上半期)の主な執行状況

◇ 新規加入者(9月受付分まで)	6,144人
◇ 退職者(9月受付分まで)	4,677人
◇ 掛金等収納額(9月実績)	3,010,108,077円
◇ 退職給付金(9月実績)	3,572,820,940円
◇ 貸付金(9月貸付分まで)	58,100,000円
65件	
◇ 共済会の運営	
・ 代議員会・幹事会開催	2回
・ 資産運用委員会開催	2回
・ 共済会NEWS発行	2回
◇ 事務利便性の改善	
・ 共済会システムの開発打合せ	9回
◇ 広報・加入促進等	
・ 従事者共済会のあらましの作成	
◇ 福利厚生	
・ 提携企業割引契約	15企業18事業

従事者共済会 運用資産のリバランス実施について

令和元年5月27日開催の資産運用委員会において、平成30年度第4四半期の運用実績を確認した結果、国内債券の構成比が70.80%と、基本ポートフォリオで設定している乖離範囲の71~81%を下回りました。そのため、乖離範囲から逸脱した国内債を中心値に修正するため、短期資産3,000百万円を移管する(リバランスを実施する)ことを確認しました。

令和元年6月に国債2,400百万円を移管し、7月に東京都債600百万円を移管しました。移管後の国内債券の構成比は72.44%と基本ポートフォリオの乖離範囲に収まっています。